

Mランドニュース Vol.229

丹波ささ山校 令和8年5月1日発行

発行 (株)篠山自動車教習所 〒669-2436 兵庫県丹波篠山市池上569
TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940 発行責任者 近藤 正幸
https://www.sasayama-ds.com E-mail info@sasayama-ds.com

今月の言葉

しあわせはいつも

じぶんのところがきめる

相田みつを

一生もの

新緑がまぶしく、丹波篠山の自然がひとときわ輝く季節となりました。
この春も、多くのゲストが期待と不安を胸に入所され、そして晴れやかな笑顔で卒業していかれました。



教習所前の夕日と桜

今回は、そんな卒業生のお二人から届いた、心のこもったお手紙をご紹介します。免許取得という目標だけでなく、何を感じ、どのように過ごされたのか。お二人の等身大の言葉から、Mランドを感じていただければ幸いです。

宮崎 夏鈴

インストラクターの皆さんをはじめ、受付やカフェ、清掃スタッフの方まで、Mランドはどこへ行っても笑顔で迎えてくださる方ばかりでした。その温かさのおかげで、入校

前に抱いていた不安はいつの間にか消え、毎日を楽しく過ごすことができました。運転に関しても最初はとも心配していましたが、個々に合わせた丁寧なアドバイスをいただいたおかげで、卒業の頃には自信を持ってハンドルを握れるようになっていました。勉強が苦手な私にとって、学科の分からないところをいつでも教えてくださる受付の皆さんの存在も、本当に心強かったです。

また、一緒に合宿に来た友達の間にも改めて感謝しています。部屋で学科の問題を出し合ったり、イメージトレーニングをしたり。お互いに支え合い、ずっと笑って過ごせた時間は一生の宝物です。



運転イメージトレーニング

Mランドで過ごした時間は、運転の技術だけでなく、人の温かさや新しいことに挑

戦する楽しさを教えてくれました。朝の挨拶で心が明るくなること。最初は戸惑った教習前の握手が、最後には「これがないと始まらない！」と思えるほど大切な存在になっていたこと。

この二週間で学んだ多くのことを忘れず、これからも安全運転を心がけていきたいと思えます。本当にありがとうございました！



卒業検定合格後に!

大畑 響鈴

私は普段、音楽大学という競争の激しい環境におり、人間関係で深く傷つき、人が怖くなっていました。入校前、家族に「三日で帰ってくるかも」と伝えたほどでした。しかし、篠山で過ごす日が増えるにつれ、私の心は少しずつ晴れていきました。Mランドが大好きになった理由はたくさんあります。



朝のボランティア

教習や移動中にすれ違う時、自然と挨拶が交わされる心地よさ。自分から話すが苦手な私でも想いを伝えられる「ありがとうカード」。ボランティア活動を通してゴミ出しの大変さを知り、日々の意識が変わったことも大きな経験でした。最初は戸惑った教習前の「握手」も、今では心を通わせる対等な証として愛おしく、自宅で車に乗る際もつい握手しうになるほどです。

何より嬉しかったのは、インストラクターの皆さんや受付スタッフ、そしてホーマーさんも含め、関わる方々が本当に優しく、関わることによって接するうちに、私はまた人間を好きになることができました。施設も隅々まで綺麗で、朝は鳥の声や町内のチャイムが目覚める…そ

んなゆったりとした時間が、疲れた心を癒やしてくれました。

二週間で免許取得だけでなく、人としても成長させていただけました。文章を書きながら戻りたくて泣いてしまうほど、ここは私にとって大切な場所。第二の故郷どころか移住したいと思っています。

他の教習所ではなく、Mランド丹波ささ山校を選んで本当によかったです。心の底からありがとうございます。



みんな卒業できました

お二人の温かな言葉は、私たち職員の宝物です。技術だけでなく「自分や人を好きになれる場所」でありたいという私達の想いが届き、何より嬉しく思います。皆さまの毎日が安全と笑顔で満たされるよう心より願っています。

はじめまして

共習・共育部

大西 裕徳



少し緊張気味です...

皆さま、はじめまして。昨年六月よりお世話になっております、大西裕徳と申します。今年で六十七歳を迎えました。この年齢で新たなご縁をいただいたことに、深く感謝しております。

二十六歳でこの業界に入り、キャリアは四十年近くになります。Mランドではまだまだ修行中の身。入社から十ヶ月が経ち、少しずつ馴染んできましたが、日々学ぶことばかりです。入社して一番驚いたのは、「挨拶やマナー」を何より大切にしている点です。当たり前のことなのですが、Mランドではゲストの皆さまにもルールとしてお願いしています。職員もゲストも、誰かれ

なしに挨拶を交わす姿は、これまでの職場では見たことがない光景でした。初対面でもすぐに心が通じ合う感覚があり、それが教習の効果にも繋がっているのだと実感しています。

卒業生の中に「技術だけでなく、挨拶やマナーの大切さを学んだ」と話す方がおられるのも、私にとっては初めての経験で、新鮮な感動でした。技能の習得と同時に、人として大切なことに気づいて卒業される姿に、この仕事の責任の重さを改めて感じています。

「大西さんに教わってよかったです」と言っていただけで、これからは日々の業務に誠実に従事してまいります。どうぞよろしく願いたいと思います。

正しい知識と大切な命

いよいよ五月三十一日に迫った「サイクルフェスタ(自転車教室)」。今年四月の法改正もあり、自転車の交通ルールへの関心が高まっています。

「便利で身近な乗り物だからこそ、知ってほしい」と語る事務局長の長谷川さんに、今のお気持ちを伺ってみました。

Q：一番の狙いは？

車の事故総数は減っていますが、自転車事故は増加傾向にあります。身近な乗り物だからこそ安全に運転していただく為に、ルールを再確認していただきたいです。

Q：なぜ「教習コース」を開放するのですか？

一番のメリットは一般車がない安全な環境で、見通しの悪い交差点や一本橋など、様々な状況を体験できるからです。ここでの経験を、普段の運転に活かしていただければ幸いです。

Q：座学では何を伝えますか？

自転車を運転する時のルールと安全に対する意識です。街中を走る機会が増える小学生のうちから、しっかり身につけていただく一助になればと考えています。

Q：準備は万端ですか？

現在、事務局のメンバーと内容を精査中です。限られた時間で最大限楽しんでもいただけるよう、試行錯誤をしています！(苦笑)

Q：最後にメッセージを！

ルールは皆さん「大体」ご存じでしょう。しかし、正しく覚えていなければ大きな事故に繋がりがかねません。この機会に改めて覚え直してみませんか？

皆様のご参加を心よりお待ちしております！



所内コースだから安心

長谷川さんの想いが伝わってくるインタビューでした。

皆さんの笑顔を守るため、現在スタッフ一丸となって準備に励んでいます！「大体」という慣れを「正しく」に変え、楽しみながら安全を身につけましょう。

子どもの成長と親の想い

顧客・環境課

石橋 学

この春、子どもが専門学校に入学し、新たな一歩を踏み出しました。「オギャー」

と産声を上げて始まった人生も、振り返ればあっという間。しかしその一瞬一瞬には、数えきれないほどの思い出が詰まっています。

子どもの成長は、日々の小さな積み重ねです。昨日までできなかったことが、今日できるようになっている。その変化に気づいた時、親として喜びと驚きを感じてきました。かつては手を繋いで歩いた。かつては手を繋いで歩いた。かつては手を繋いで歩いた。かつては手を繋いで歩いた。

親が子に願うこと。それは、健康で幸せに、自分の力で人生を歩んでいくことです。たとえ失敗しても、その経験が、人としての深みを作っていくはず。

また、私自身も子育てを通じて成長させてもらいました。子どもの言葉に学び、価値観を見直す中で、子育てとは一方通行ではなく「共に歩む時間」なのだ実感しています。

生まれた時は、紅葉のように小さかった手。今では頼

編集後記

もしい大人の手となりました。これからの道のりをすべて支えることはできなくとも、そっと見守り、必要な時にそっと手を差し伸べられる親でありたい。そんなかけがえない時間を大切に、これからも共に歩んでいきたいと思えます。



コース内のツツジ

コース内も緑が鮮やかに映える、爽やかな季節となりました。この春小学生になった次男。心配をよそに、今では元気に集団登校する姿に成長を感じています。石橋さんの記事の通り、いつの間にか手は離れていくものですね。次に手を繋がないでくれるのは私の老後(笑)？と想像しつつ、五月からは付き添いなしの登校を見守る予定。皆さまも爽やかな五月をお過ごしください。

近藤 正幸